

第2部 サンゴ礁生態系の恩恵とマスタープランの目標

第1部で述べたように、サンゴ礁生態系は衰退し、様々な危機に直面しています。

ここで私達は、サンゴ礁生態系が地域にもたらしてくれる恩恵を再度認識し、地域で目標を共有してサンゴ礁生態系の保全・再生に取り組む必要があります。

第1章 サンゴ礁生態系の恩恵

八重山のサンゴ礁生態系は地域にとって次のような恩恵をもたらしており、これを保全し、持続可能な利用を進めることにより次の世代へ伝えることは、今を生きる我々の使命です。

1 恵み豊かな地域共有の海

サンゴは多くの生き物に産卵場所、隠れ場所、食料を提供しており、豊かな海の基盤を作っています。サンゴが豊かな八重山の海は、多くの生き物が育まれており、漁業者にとっては豊かな海の恵みを与えてくれるかけがえのない海です。また、古くからアーサ採り、モズク採り、貝拾いなど季節の食材を提供してくれる地域住民共有の海です。

近年はサンゴ礁の多種多様な生物はバイオテクノロジーのさらなる技術進展によって、新たな医薬品や食料開発に役立つことが期待されています。

2 美しいやすらぎの海

日々色を変える美しいサンゴ礁の海は、島の人々に安らぎとうるおいを与えてくれます。また、釣りや海水浴などレクリエーションの場として利用されています。

さらに、都会の人々に安らぎとうるおいを与えるダイビングやグラスボートなどのレクリエーションの場などの観光資源として地域経済を支えています。

3 生活環境を支える海

地球上の生物は、生態系というひとつの環のなかで深くかかわり合いつながら生きています。サンゴ礁は我々が暮らす島を作るほか、水質浄化などの働きをして、人間の存在にとって欠くことのできない基盤となっています。また、サンゴ礁は自然の防波堤の役割を果たし、人々を災害から守っています。

30年から50年先、さらに世代を超えて人間生活の安全を保証するうえで、サンゴ礁を保全することは人工的な防波堤を作ることなどに比べて、効率的な方法でもあるのです。

4 生き物とのふれあいを学ぶ場

潮が引いた干潟はカニやナマコなどの生物を観察するのに絶好の場所です。波の穏やかなイノー(礁池)はスノーケリングによる魚・サンゴなど生物の観察に最適です。生き物と身近にふれあえる豊かなサンゴ礁は環境教育の場としての活用が期待されています。

サンゴ礁の海で楽しみながら学ぶことがサンゴ礁の海を守る第一歩なのです。

5 豊かな文化のみなもと

日本人は、自然と順応して様々な知識、技術、豊かな感性や美意識をつちかい、多様な文化を形成してきました。ここ八重山でも、上布の海晒し、カニの生態を生き生きと謡ったアンバルヌミダガーマユンタをはじめとする民謡、サンガチの浜下りなど自然と密接に結びついた豊かな文化が今も生きており、

サンゴ礁の海は今後も文化、芸術の発展に欠かすことのできない資源です。また、島の人々が生きてきた知恵を学ぶところでもあります。

多様な生物や文化は地域ごとの固有の資産であり、今後の地域活性化、個性的な地域作りを成功させる重要なカギとなることから、その基盤となるサンゴ礁生態系を保全・再生していく必要があります。

第2章 マスタープランの目標と未来の石西礁湖のイメージ

第2部第1章で述べたようにサンゴ礁生態系は様々な恵みをもたらしてくれますが、石西礁湖のサンゴ礁生態系は多くの危機に直面しており、その恵みが失われつつあります。このため、将来にわたってサンゴ礁生態系の恩恵を地域が享受していけるよう石西礁湖の保全と自然再生を進めていきます。

1977年の空中写真を基にした調査によると、石西礁湖全域がサンゴ群集分布域とされています。これまで開催した意見交換会やワークショップの中でも、1970年代前半までは、水が澄み、背丈ほどもある枝状のサンゴが豊富にあったということです。また、このように優れた資質を有していたことから、1972年に日本で24番目の国立公園に指定されました。

このため、石西礁湖における自然再生の目標は、人為的な影響が比較的軽微だったと考えられる1972年の国立公園指定当時とします。しかしながら、陸地からの赤土や生活排水の流入による水質の悪化、地球温暖化による海水温の上昇に伴い繰り返される白化によるサンゴの死滅などサンゴ礁生態系を取り巻く環境は日々悪化し続けています。このため、石西礁湖とその周辺においては、陸地からの負荷を軽減し、サンゴの回復を手助けするなど、当面は現状より悪化させないことを目標に取り組みを進めていきます。

石西礁湖自然再生の目標

長期的目標：1972年の国立公園指定当時の豊かなサンゴ礁生態系を取り戻す。

短期的目標：環境負荷を軽減し、現状より悪化させない。

過去の素晴らしい石西礁湖を取り戻すために、このような目標にむけて努力していきます。ここで、自然再生に取り組むわたしたちの未来の石西礁湖のイメージを描いてみましょう。

山と森と海と人々がつながり、岸近くにもサンゴが育まれている。すきとおった海のなかを、クジラブツダイが群れ泳ぎ、ギーラが湧き、サンゴのお花畑が咲き誇っている。イノーはモズクとアーサ採りのオーバーで賑わい、サバニの上のオジーは今日も笑顔で帰ってきた。夏の日差しに、水しぶきをあげてはしゃぐ子どもたちの白い歯が眩しい。

